新潟開港150周年事業実行委員会

海と日本プロジェクト2018

子ども流域連携体験交流事業参加者レポート

新潟×福島

新潟県の小学５年生

**伊藤久羚亜〈新潟市立濁川小学校：5年〉**

**選んだテーマ：1**

　私は、今回このプロジェクトに参加して、福島県と新潟県の深いつながりについて知る事ができました。学校では、新潟県の事は勉強しましたが、他の県とのつながりまでは習っていなかったので、これからもずっと仲良く交流していくためには、今回のようなイベントがあるといいと思います。

　お互いの地域が素敵になるようにするには、お互いの地域をよく知って他の地域に住む人や家族や友達に伝えれば、たくさんの人がその地域に行ってみたくなると思います。

　そして私は、他の県の事をもっと知って友達に話したいです。

**殖栗千晴〈長岡市立新町小学校：5年〉**

**選んだテーマ：2**

　この先もずっと阿賀川・阿賀野川と日本海に大勢の人が関心を持ち、親しみ、大切にしていくには、阿賀野川や日本海の歴史などを知ってもらうことが必要だと思いました。

　福島と新潟の人が阿賀川・阿賀野川を通してまきを運んだり塩を運んだりして関わっていることなどを興味を持ってもらえるといいと思いました。

　佐渡で塩を作っていて大変な作業だけど少し自分で作ってみたいと思いました。自分で自由課題のレポートを作るために調べたことは、阿賀野川のことです。流れ出る水の量がとても多いと思いました。あと阿賀野川の水質もきれいな水質で、全国的にめずらしいそうで、すごいと思いました。

もっと調べて、学校で発表したいと思いました。

**加藤泰樹〈新潟市立木崎小学校：5年〉**

**選んだテーマ：2**

　ぼくが将来大人になった時、阿賀川・阿賀野川と日本海に関心をもってもらうために未来の子供たちに阿賀川・阿賀野川の良い所を伝えていきたいです。

　ぼくは、初めて川の河口を見に行きました。川の河口が大きい事や水がきれいな事を細かく後の世代に伝えていくことが必要だと思いました。

ぼくができることは、阿賀川・阿賀野川と日本海の海岸などにあるゴミを取ってきれいにすることです。日本海では、水も汚く海にプラスチックゴミや農薬ぶくろなどゴミが流れています。そういうとこから環境問題につながるのでゴミが一つもなくなるようにしたいです。プラスチックは微生物によって分解されないのでゴミを捨てたことがある人は、これからは注意してほしいと思います。一人一人が気をつければきれいな日本海になると思います。

　この旅行で阿賀野川に興味をもったのでこれからも川や海を調べていきたいと思います。

**斎藤怜亜〈新潟市立上山小学校：5年〉**

**選んだテーマ：2**

　みんなが、ごみをすてないで、みんなでごみをひろってきれいにする。

　イベントをしたりしてみんなに好きになってもらう。

　例えば

・カヌーで楽しんでもらう。

・だれが一番速く泳ぎきれるか。

・ごみひろい大会（1位～10位の人に賞品をあげる。）

　例えば、商品券、川のグッズ。

　ごみを、すてないでというポスターをはる。

　阿賀野川を、管理している人に川の大切さをおそわる。

　ぼくは、阿賀野川を大切にするためにすることは、たまに、学校の水道をしめるのをわすれることもあるから、二回くらいかくにんする。

　学校でしめていない友達がいたら、ぼくがかわりに、ぼくが水道の水をしめたいです。

　考え

ぼくは、あがの川、あが川、日本海が、今よりも、もっともっときれいで、みんなに親しんでほしい。

**中村拓人〈聖籠町立山倉小学校：5年〉**

**選んだテーマ：1**

　ぼくは、新潟県の人と福島県の人達とこれからも仲良く交流するためには自分からまた、このようなツアーに参加したりするとおたがいがもっと仲良くなれると思います。だからまたこのようなツアーがあったら参加していきたいと思います。

　二つ目はおたがいが新潟県に行ったり福島県に行ったりするといいと思います。理由は、おたがいの県の良い所やちがいを見つけたい。新潟県は日本海がわに面しているけど福島県は太平洋がわに面しているから海のちがいも分かると思います。

　他にもその県の特産物や有名な物などを見たり食べたりするといいと思います。そして新潟県と福島県は鉄道でも行けるし高速道路もあるのでとても行きやすいです。だからこのことをみんなに広めてますます新潟と福島の人と交流を深めていけたらいいと思います。

**錦澤結希〈新潟市立桜が丘小学校：5年〉**

**選んだテーマ：1**

　私は海もり川もりプロジェクト塩ツアーで、初めて新潟と福島との関係を知りました。

　お互いの地域がもっと素敵になるようにするには、もっと仲良くなればいいと思います。

　そのためには、塩ツアーみたいに、福島の人のことを知ったり、話したり、遊んだりする体験ができるといいと思っています。

私がこれから始めることは、体験ツアーで知ったことを友達に教えてあげることです。

　また、新潟と福島との関わりをもっと調べてみたいです。

**西脇あかり〈長岡市立越路小学校：5年〉**

**選んだテーマ：2**

　私は、阿賀川・阿賀野川と日本海に大勢の人が親しみを感じられるように、二つのことを考えました。

　一つ目は、小中高の修学旅行で阿賀川・阿賀野川をたどることです。東京などではなく、新潟県や福島県で歴史や地理を勉強した方が良いと思います。なぜなら、地域を知ることができ、大切にできるからです。

　二つ目は、この前の「海もり川もりプロジェクト　塩づくり」で学習したことを自分の自由研究でさらに調べてみることです。そして、友達や先生に伝えたいです。自分自身で深く学ぶとともに友達もこれらの地域に関心が持てるようになると思います。

　このように、みんなと一緒に修学旅行でこれらの地域を訪れ、自分でも勉強していけば、ひとりひとりが私たちの生活している地域に関心が持てるようになると思います。

**渡辺杏奈〈聖籠町立蓮野小学校：5年〉**

**選んだテーマ：1**

　新潟県と福島県は阿賀野川を通して昔から深い関わりがあります。新潟から福島へは塩を、福島から新潟へは木材を多くはこんでいたそうです。

　阿賀野川の源流は福島県と栃木県の間にある荒海山で、ほかにもたくさんの小さな川が集まって、今、新潟市を流れる阿賀野川となっていると教えてもらいました。流れる水の量は日本で二番目に多いと知っておどろきました。

　そして、これからも新潟県と福島県の人が仲良くできるようにする方法を考えました。一つは、今回のような事業に参加して交流すること。二つ目は新潟と福島の特産品を阿賀野川を通じて運ぶことです。私自身は、福島のことをこれから多く学んで、まわりの人に教えたいです。それから私の住んでいる新潟のことを大切にして、全国にはっしんしていきたいです。

新潟県の小学６年生

**岩原苺〈新潟市立大野小学校：6年〉**

**選んだテーマ：1**

　私は、新潟県と福島県の人がこれからもずっと仲良く交流し、お互いの地域がもっと素敵になるようにするには、福島の人は、新潟の人を、新潟の人は、福島の人を知る必要があると思います。なので私は、海もり川もりプロジェクトで仲良くなった福島の人とおたがいをよく知るために、お手紙でやりとりすることにしました。人を知るだけでなく、福島のいいところを知って、新潟のいいところを知ってもらいたいです。

　私は新潟の人と福島の人で、力を合わせて、新潟と福島を素敵な地域にしていってほしいです。

　新潟の人と福島の人が交流できるプロジェクトをまた何か考えてほしいと思いました。

また交流できるプロジェクトがあれば、他の人にも福島の人と交流してほしいし、私も交流をしてみたいです。こんどは、福島にもいっていいところをたくさん見つけていきたいです。他の人にも新潟と福島の昔からの深いかかわりについて、ぜひ知ってもらいたいです。

**風間陽太〈長岡市立栖吉小学校：6年〉**

**選んだテーマ：1**

　新潟の人は、福島へいっぱい遊びに行き、お友達や知り合いに福島の素敵な所を教えてあげる。そのお友達も自分の知り合いに教えてあげて、新潟県民全員が福島へ遊びに行き「福島って良い所だからまた来たい。」と思えれば、これからもずっと仲良く出来ると思う。

　ぼくは、福島県が好きです。郡山カルチャーパークに行った事があります。湯の上温泉・塔のへつり・鶴ヶ城も行った事があります。新潟県と同じで、お米や水がとってもおいしいです。

　ぼくは、これからも福島の素敵な所いっぱい見つけていきます。

　とても楽しい佐渡の旅でした。夏休みの楽しい思い出になりました。

**金田優作〈新発田市立御免町小学校：6年〉**

**選んだテーマ：1**

　ぼくは、この夏福島の那須甲子に行き、8泊9日のキャンプをしました。その時ぼくは、福島に住んでいる子と協力したり、助け合ったりして交流をはかりました。福島の友達は少し方言があり、話していることが分からなかった時がありましたが、優しかったです。その福島の子とは、仲良くなり友達になりました。お盆には手紙をもらいました。その手紙には「今度新潟に行きたいので、新潟を案内してください。」と書かれていました。冬休みの時に、その福島の子を呼んで新潟の良い所を案内したいと思います。そして夜、僕の家に泊めたいと思います。今回海もり川もりプロジェクトにも参加して、福島のたくさんの友達ができました。新潟と福島は昔、塩での交流があったと勉強しました。新潟と福島の県の人が仲良くするには、出会いを大事にし、災害になった時は友達に電話したり、助け合うことが大事だと思います。そのため、海もり川もりプロジェクトを続けてほしいと思います。

**斎藤彰斗〈胎内市立中条小学校：6年〉**

**選んだテーマ：1**

　ぼくは、新潟県と福島県の人が、これからもずっと仲良く交流し、お互いの地域がもっと素敵になるようにするには、今回のような新潟と福島の人がいっしょに体験をしていけばいいと思います。ぼくは、この体験を通して、初めて会った福島や新潟の人たちと、すごく仲良くなれました。だから、このような体験活動をこれからもずっと続けていけば、どんな世代の人でも、新潟と福島の人は仲良くできると思います。そのためにぼくは、今回のような体験活動があった時にはできるだけ参加して、もっとたくさんの福島の人と仲良くなれるようにしたいです。

　他にも、福島を知るために、福島県に観光に行ったり、福島に行った時は、福島の歴史が知れる資料館や、あら川の上流のあたりも見に行ったりもしてみたいです。今回の体験学習では、佐渡に行ったので、次は福島の方へ行ってみてはいかがでしょうか。　二日間ありがとうございました。

**坂上春樹〈新潟市立鳥屋野小学校：6年〉**

**選んだテーマ：2**

　私の住む新潟市は信濃川や阿賀野川、そして日本海にとても近いですが、両親には小さいころから「川や海は危険な場所」と教えられてきたり、また夏は海水浴よりもプールで遊ぶことが多かったため、これまであまり「水に親しむ」というようなことを真剣に考えたことがありませんでした。

　でも、今回このツアーに参加し、道路がまだしっかりできていない時代に、阿賀野川が福島県との交流に大切な役割を持っていた事や、海水から塩がとれる様子を学ぶことができたことで、海や川が私たちの生活とは切りはなせないものだということがよく分かりました。

また磯や、海でふだんできないようないろんな遊びを経験できたことで、海や川で遊ぶことの楽しさが分かったし、怖いイメージもなくなりました。

学校の授業でこうしたことを学ぶ機会は少ないですが、私がそうだったように、私たちが海や川の持つ役割をもっと興味を持って学ぶことで、「大切にしたい」という気持ちが生まれてくるものだと思います。

**白川結〈新潟市立中之口東小学校：6年〉**

**選んだテーマ：1**

　また、塩コースや鉄コースをやって、おたがいのいいところを教えてあげる。いろんな活動をする。川の歴史をたくさん調べる。友達や家族に、分かったことなどを教えて、たくさん知ってもらう。私は、家族にいろいろ教えてあげる。みなとぴあみたいな所をたくさんつくれたらつくったり、広めたりする。手紙をかいたりする。自分の地域のいいところを教えあったりする。川のいいところや、あってよかったことを教えてあげる。地域の交流たくさんする。友達をたくさんつくって、川が新潟から福島までつながっていることを教えてあげる。阿賀野川の水量が日本で二番目に多いことを教えてあげる。

**土屋晶〈上越市立有田小学校：6年〉**

**選んだテーマ：1**

　私は海もり川もりプロジェクトの塩コースに参加して、福島に友達ができました。みんな最初は話したりできず、しーんとしていました。でも、一泊二日一緒にすごし帰りの船では昔からの友達のように話すことができてうれしかったです。

　塩コースの体験では、班のみんなとバナナボートやジェットスキーに乗りました。乗っているとき、水がかかると寒くて「つめたい！」ともりあがりました。同じことを一緒に体験して楽しさを共有できたことが私はうれしかったです。

　私は楽しさを共有することが仲良くなるためのひけつだと思います。友達と楽しさを共有すると同じ思い出ができます。バナナボートの話をして楽しい気持ちになり、そこからたくさん話をすることができました。

　子供だから簡単には会いに行けませんが、また福島の友達に会いたいです。それまでこの楽しい思い出を忘れず心にしまっておきたいと思います。

福島県の小学５年生

**佐々木陽香〈郡山市立富田東小学校：5年〉**

**選んだテーマ：2**

　わたしは、今回みんなと佐渡に旅行に行きました。その時に、海でみんなでバナナボートに乗りました。とても楽しかったです。でも、海が少しすなでよごれていたような気がしました。みんなと一緒に海水から塩を作る体験をしました。その塩で作ったおむすびは、とてもおいしかったです。海水は、こんなふうにわたしたちのいろいろな食べ物に使われます。だから、海はキレイでいてほしいと思います。そのためにはわたしたちがかんきょうを守る事が大切だと思います。そのためには、すなはまのゴミをへらしたり、家で使うせんざいの量を少なくしたり、かんきょうにやさしい物にしたりすると良いと思います。

　今回、みんなと新潟に行ってみんなと海で色々な勉強をして、海はやっぱり、キレイでいてほしいと思いました。だから自分たちでできることをせいいっぱいやって、キレイな日本海と川や、そこに住んでいる生き物たちを守っていきたいと思いました。

**高﨑悠〈喜多方市立豊川小学校：5年〉**

**選んだテーマ：1**

　お互いに、素敵になるようにするには、と中に、海で運ぶ、米や木材を途中でやめたりしないこと。これが一つ。

　福島と新潟の関わりをちぢめないと、みをひきしめるように自分じしんでまもっとく。川の魚や、色々な川にいるものをつかまえない。川をなるべく、よごさないようにする。川の流れをとめないようにしていく。自分はなるべく、川遊びを必要な時以外しない。自分が食べたかすや、ごみをすてない。土から抜いた草は、川にすてない。

　なるべく頭に入れて、心がける。

　福島、新潟の人たちと、関わりを増やせるように、こんかいのようなツアーがあればいいと思う。

**矢澤瑠納〈会津若松市立城北小学校：5年〉**

**選んだテーマ：2**

　この先もずっと阿賀川・阿賀野川と日本海に大勢の人が関心を持ち、親しみ、大切にしていくには、まず、阿賀川・阿賀野川や日本海に親しむ機会を増やすのがいいと思います。これからの未来をになうのは、私たちなので阿賀川・阿賀野川や日本海に親しみを持てば、大切にしようと意識すると思うからです。

　わたし自身は、阿賀川・阿賀野川や日本海のことをもっと知り、友達やクラスメイトの人たちに阿賀川・阿賀野川や日本海のよいところと川や海を大切にしなければならないということを教えてあげられるかな、と思いました。

**木田未蘭〈会津若松市立城北小学校：5年〉**

**選んだテーマ：1**

私は、進んで新がたの人たちと交流ができるイベントなどに参加したり、もし、学校の行じで、新がたの人との交流があったりした時に、自分から声をかけたりして、「新がたはこんなのがあるよ！」、「福島にはこんなすごいのがあるよ」みたいに楽しくかいわしたりすることがいいと思います。

もっとすてきな地いきにしていくには、さきほどかいたみたいに交流イベントなどで進んで声をかけ、どっちもの地いきのすごいところ、いいところ、おもしろいところなどをしゃべったりして、新がた、福島に行きたいな、もう一度あの場所にいきたい、こんな風におたがいの地いきを思うことでもっとすてきな地いきになると思います。

**棚橋樹〈会津若松市立永和小学校：5年〉**

**選んだテーマ：1**

　福島県と新潟県はどちらも米が有名で、たくさんつくっているので、相手の県（福島だったら新潟県）の米を食べると相手の県も自然豊かになるし、（たくさん米をつくれるから）自分たちの県も米をたくさんつくって、観光客もたくさん来てくれて、米も売れるし、いいことだらけだと思います。でも私は、会津の米以外あまり食べたことがありません。新潟県の米はとてもおいしいと聞いたことがあります。でも、会津の米もおいしいと思います。それに、このツアーで学んだ「阿賀川・阿賀野川」という大きな川も流れているのです。米は大事で、すごいものだと思います。私は新潟県の米を食べてみようと思います。

**那須瑛太〈福島市立森合小学校：5年〉**

**選んだテーマ：2**

　ぼくが大勢の人に阿賀川・阿賀野川と日本海のことに関心をもってもらうためにはまず、阿賀川・阿賀野川と日本海の基本的なこと、長さが何ｍかや、深さは何ｍかなどを知ってもらうことが必要だと思います。そうすれば知った人がきょうみをもって、そのことを調べることがあるかもしれません。そのことが調べた人の地域に関係があったら、調べた人がそれに親しみを感じて、阿賀川・阿賀野川や日本海を大切にしていくと思います。だからぼくはまず、学校の人に、阿賀川・阿賀野川や日本海を知ってもらいたいと思います。その方法はポスターです。ポスターにクイズでまとめれば、多くの人がなんだろうと思ってたちどまってくれると思います。たくさんの人達に阿賀川・阿賀野川や日本海のことを知ってもらいたいです。

**福田侑〈福島市立清明小学校：5年〉**

**選んだテーマ：1**

　ぼくは、今回の「塩と鉄ツアー」に参加していろいろな友だちと出会いました。

　初めて出会った時、にいがた県から来た人から声をかけてくれて福島県の人とにいがた県の人はこんなに仲がいいんだなと思ってこのテーマを選びました。

　これからもっと仲良くなるようにするには子どもだけじゃなく、大人ともこうりゅうしておたがいをよくするといいと思いました。

**渡部愛心〈会津若松市立一箕小学校：5年〉**

**選んだテーマ：1**

　私は、福島県と新潟県の人達がこれからもずっと仲良く交流し、おたがいの地いきがもっとすてきになるようには、さまざまな学校とつながり合えたりできるように学校と学校でモニターに動画をうつし話し合えたり、一緒に勉強をしたりすれば良いのではないかと考えます。すこし、むずかしいかもしれませんが、それを協力して考えていくのも、考えてくれた人達も交流ができるのでみんながみんな、とっても仲良くなれると思います。そして私は、このことを通して、自分で出来ることを考えてみました。私が出来ることは、たった一つだけ。人を選ばず、差別をせず、どんな人でも、どんなにはずかしくたって元気よくあいさつをしてみたり、自分からみんなに話しかけてみたりすることです。

　私は初めて会った人とは、自分から話しかけたりできないことが多いので、もっとはずかしがらないで、自分から、みんなに話しかけてみたいと思います。自分の出来ることをもっとさがしていきます。

**渡部友葉〈会津若松市立城西小学校：5年〉**

**選んだテーマ：2**

　みんなが阿賀川、阿賀野川と日本海に関心を持ち、親しみ、大切にしていくには、そのことについて考えたり、じっさいにふれたり見たりすることです。福島県と新潟県の人は身近に感じられますが、他の県の人たちはあまり感じないと思います。

　私は福島県の人は新潟県へ、新潟県の人は福島県へ行き、おたがいの県のよさをまとめ、ポスターやパンフレット、リーフレットにするのがいいと思います。理由は、おたがいちがう県の人がそう思うなら、その他の県の人もそう思うと考えたからです。そしてこれからどんどん阿賀川や日本海のことを、友達に教えてあげたいです。

福島県の小学6年生

**鈴木優人〈会津若松市立河東学園小学校：6年〉**

**選んだテーマ：2**

　ぼくたちが、こんかい学んだ海もり山もりプロジェクトでは、阿賀川・阿賀野川という川をバスの車内で見ました。おおぜいの人がしたしみを持ち大切にしていくには、川をきれいにしていけばいいと思います。

　ぼくの家の近くにある日橋川だって新潟に水が運ばれています。　そしてぼくたちは、川にごみを捨てたりしないようにすれば川から海までの水はきれいになると思いました。

**玉川裕理〈下郷町立楢原小学校：6年〉**

**選んだテーマ：2**

　ぼくは、阿賀川、阿賀野川で船に乗ったり、日本海がつくりだした地形などを子どもたちに見せれば、

「阿賀川、阿賀野川、日本海にこんなすばらしい場所があったんだ。」

と言ってみんなに話してくれれば、全員が

「阿賀川、阿賀野川、日本海ってすごいんだなぁ。」

と思ってみんなが関すると思います。

　ぼくには、船に乗せることもすごい地形なども見せられないけど今回の感想をみんなに広めたらみんな、「早く行ってみたい。」と思います。なのでぼくは、みんなに感想を発表すればいいと思います。

**安齋歩珠〈本宮市立糠沢小学校：6年〉**

**選んだテーマ：2**

　私が考える阿賀川、阿賀野川そして日本海に関心を持ってもらうためには、たくさんPRをすれば良いと思います。

　たとえば、日本海をきれいにするボランティアなどを集めて活動すれば良いと思います。

　なぜかと言うと、海水浴とバナナボート、ジェットスキー体験で日本海へ行った時に砂浜にプラスチックやペットボトルのごみ、木材がたくさんあってとても歩きにくかったからです。中にはころんでいる人もいました。

　私も清掃ボランティアを行ってみたいです。去年、学校でもごみ拾いをよくしていました。

　また、最近ニュースでいるかがプラスチックのごみを食べてしまい死んでしまうという事が全国や世界でおきてしまっているので、少しでもこういう事を減らしたいです。

　私も、阿賀川、阿賀野川そして日本海に目を向けて生活し、環境をきれいに守っていきたいです。

**大西拓己〈喜多方市立第一小学校：6年〉**

**選んだテーマ：2**

　ぼくが、このツアーに参加してこの先もずっと阿賀川・阿賀野川と日本海に大勢の人が関心を持ち、親しみ、大切にしていくために必要だと思ったことは、二つあります。

　一つ目は、海岸や川の清そう活動をすることです。川や海がきれいになればたくさんの人が川や海に気軽にこれるようになり、海や川に親しみを持ってくれるようになるからです。また、清そう活動を行っていると知った人達が、川や海にごみを捨てるのはやめようと思ってくれて川がきれいになるからです。

　二つ目は、川や海のことを学ぶイベントなどを行うことです。イベントを行えば、それに参加した人が川や海に関心を持つようになるからです。最後に、ぼくはこれから川や海を大切にするために川や海などの清そう活動に積極的に参加したいです。

**木村月陽〈会津若松市立東山小学校：6年〉**

**選んだテーマ：2**

　ぼくは、この体験に参加して分かったことは、塩は大切だと思いました。海水を運んで何日もかけてつくっても少量しかできないからです。だから塩を大切にしたいです。

　ぼくはテーマ2を選んだ理由。川は海までいって、川にゴミをすてたら海にゴミがいってきたなくなるのでゴミを川にすてないで川も海もキレイにしていくことが大切です。なのでぼくは、友達に自分自身もゴミを川にはすてないといいたいです。次は新潟県の人が福島県にきて仲良く交流し、お互いの地域がもっと素敵になるようにしたいです。このたびは参加をさしてくださり、ありがとうございます。

**佐々木菜未〈喜多方市立堂島小学校：6年〉**

**選んだテーマ：1**

　お互いの県、地域の良いところや、考え方、工夫したことを教え合って、お互いに困ったことがあったら助け合い、協力していくことが必要だと思います。

　それは、今回のプロジェクトで友達と釣りで「ここは魚がいっぱいいるよ。」や「ここは、こうするといいよ。」などと、アドバイスを友達どうしでして、お互いにたくさん釣れるように教え合ったことや、塩づくり体験のときも、友達だけでなく、大人の方（スタッフの方）と協力して、海水をくみました。このように、たくさんの人と協力し、助け合いながら、今回のような楽しいことを通して仲良く、交流すれば良いと思いました。

　私は他の県、地域から来た子に自分の住んでいる場所の良いところを教えてあげられるようにするために、自分の県、地域の良いところを見つけるところから始めたいです。

**谷川愛歩〈私立会津若松ザベリオ学園小学校：6年〉**

**選んだテーマ：2**

　私はレポートのテーマを2に選びました。

　阿賀野川について調べてみると、阿賀野川は、福島県とぐん馬県に源流があるそうなので、福島県とぐん馬県、そして川がつながっている新がた県のこの三県で交流してみるといいと思います。この三県で交流することで、さらに川のことについて学び、たくさんの人が川に関心を持つのではないかと考えました。

　そして、川のことを大勢の人が知ることで環境保護にもつながると思います。今の人たちは、川について関心がないから川にゴミをすててしまうんじゃないかと思います。なので、大勢の人に川のことについて関心をもってもらうのはとても大切なことだと思います。そのために私は、カレーや油を水道ですてない、ゴミをすてないということをよびかけて、川を大切にしていきたいと思います。

**福田拓〈福島大学付属小学校：6年〉**

**選んだテーマ：1**

　ぼくは、今回の旅で新潟県の友だちが、出来ました。ぼくは、もっと友だちを、作ったり、交流をしたと、思いテーマ1にしました。

　今も昔も、福島県と、新潟県は交流していましたが、もっと交流したり、お互いの地域がもっと素敵になるようにするには、必要な事は、今回のように、旅として、福島県に、泊まったり、新潟県に泊まることで、新たな友だちや、その県の、すばらしさが、わかると、思うので、今回のように、旅として、泊まり、すばらしさを、知る事が、必要だと、思います。

　ぼく自身が出来る事と、しては、今回のこの旅のことを、家族や、友だちに伝えたり、旅だけではなく、家族での、旅行や、お出かけなどでも、行って、素敵な所を、見つけたいです。

　感想　今回の旅では、行った事が無い佐渡ヶ島でしたが、今度も、このような、プロジェクトが、あれば行って、みたいと、思いました。楽しかったです。

**森知拓〈南会津町立南郷小学校：6年〉**

**選んだテーマ：1**

　ぼくは、この交流がとても楽しかったです。初めて新潟に行って、海の特産物を使った海鮮丼がおいしかったからです。なので、おたがいのいい所や特産物を知ることが出来ればもっと仲良くなれると思います。

　福島県には、おいしい南郷トマトやアスパラ、桃などの果物と、いなわしろ湖があります。新潟県には、塩や海でとれたものがあります。

　おたがいの良い所が体験できたり、知ったりする事が出来る交流ツアーが増えると、もっと仲良くなると思います。そして、自分たちが住んでいる県の知らない良い所に気付くと思います。

**渡部瑠楓〈会津若松市立一箕小学校：6年〉**

**選んだテーマ：2**

　私は会津若松市からのおうぼで、私の家の近くには、阿賀川という川がありました。それがまさか、新がた県の阿賀野川、そして日本海につながっているなんて思ってもいませんでした。

　また、阿賀川と阿賀野川を通して、にいがた県は塩を、福島県が木をはこんでいたこともしりました。

　この体験を通して、色々なことをしれました。一つ目は、阿賀川→阿賀野川→日本海とつながっていること。二つ目は昔から、福島県と、にいがた県が仲が良かったこと。三つ目は、阿賀川と阿賀野川を通して、木や、塩をはこんでいたことです。きちょうな体験ができてよかったです。また、佐渡に行けるきかいがあったら今度は家族で行きたいと思いました。

新潟開港150周年事業実行委員会